

民衆の怒りの核心は、NATO への拒否だ

鈴木 頌

2024 年 6 月 13 日

EU 選挙の結果が大きな話題を呼んでいる。

「極右の進出が危険だからそれを防ぐために団結しよう」というのが、メディアと権力側の訴えである。どこまでいっても食えない連中だ。

しかし実のところ、問題の本質は全然違って、そんなところではないのだ。この間の EU の政策が如何に間違っていたかということなのだ。そして、その結果、戦略的にどん詰まりになっていること、それが最大の問題なのだ。「このままでは欧州そのものが崩壊してしまう」...そういう危機に欧州はあるのだ。

そういう結果を招いた「中道右派」と呼ばれる勢力が、すべてについて責任を負わなければならない。

たしかに難民問題はキレイ事ばかり言って済まされる問題ではないが、長期的に見れば原因ははっきりしているし、解決の方向もはっきりしている。

考えてみれば、中東は「9.11 事件」以来、20 年にわたって、全土がガザだった。人々はアフガンから追われ、イラクから追われ、シリアから追われ、リビアから追われた。

すべてアメリカとイギリス、NATO 勢力の仕掛けた干渉戦争だった。とくにリビアの破壊は重大だった。リビアが抱えていたサブサハラ労働者は職を失い、地中海をわたるか、カラシニコフを退職金代わりに砂漠の向こうに舞い戻るしかなかった。その銃口はただでさえ貧しい住民に向けられ、新たな難民を生んだ。だから難民問題とサブサハラの相次ぐ紛争はコインの両面なのだ。

まずは石油、鉱物に対する主権を返還し、正当な使用料と原油価格を支払うこと、この間に破壊した現地のインフラを侵略した国の責任で無償復興すること、WHO や FAO、ユネスコなどの要請に応じて必要な援助を遅滞なく行うことである。

これらの政策は先進国側にも復興需要を引き起こすし、難民の急増を抑えるための即効性のある救済手段となる。極右は「移民は来るな」と叫ぶだけで、それ以上の手段は持ち合わせていない。極右への支持は、たんなる怒りの爆発に過ぎない。

次に、今日最大の難民問題となっているのはウクライナである。だから EU 地域では、極右でさえもウクライナへの干渉はやめろと言っている。それが国民のかなりの支持を集めている。

知ってほしいのは、NATO とアメリカがウクライナ戦争を続けさせているということである。ロシアが正しいとか正しくないとかいうのは、戦争をやめるうえでは必要ないことだ。当事者は3つある。一つはロシア、一つはウクライナ、そしてもう一つが欧米諸国だ。思い出してほしい。戦争が始まって1ヶ月ほどでロシアとウクライナは停戦にほぼ同意した。その時、NATO は停戦させなかった。ウクライナに、**正義のため**にもっと戦えといい、ウクライナはそれに従った。

戦ってから1年たった去年の今頃、すでに勝負の行方は明らかだった。しかし NATO は止めさせなかった。そのためにクラスター爆弾を使わせ、劣化ウラン弾を使わせ、ミサイルと使って越境攻撃を始めた。戦いの本質はこの時すでに明らかだった。

- 1 . ウクライナは全土が戦場と化し、ミサイルと砲弾が降り注ぐ地獄となった。
- 2 . 両軍の兵士はお互いに、ほぼなんの理由もなく殺し合い、犠牲者は数十万に及んでいる。避難民は国内外あわせて百万近くに及び、近隣国にも深刻な難民支援疲れが蓄積している。

3 . もう一つの当事者、NATO 軍は人的損傷ゼロで、在庫を一掃し、ひたすら儲けている。

4 . 西欧諸国の市民生活は戦時経済を強いられ、エネルギー価格の高騰が直撃している。

これがいま続いている戦いの本質だ。

こういう中でアフリカ、中東の難民が殺到すれば、当面の憎しみが彼らに向けられるのは当然だ。それは単純な人種差別の問題ではない。もし左翼がメディアの煽る「正義」論ではなく、即時無条件の停戦、欧州の平和と発展を第一に考え、「NATO は不要だ」との立場に立つことができるのなら、勝利は向こうから転がり込んでくるはずだ。移民・難民問題も左翼のイニシアチブのもとで論争されることになるはずだ。（了）